

マリンスライフ

[Vol. 272]

江田島さとうみフェスタ 2024



今年度から江田島市内の各小中学校で本格的にスタートした「さとうみ学習」。その実践交流会として、12月6日（金）、江田島小学校を会場に「江田島さとうみフェスタ2024」（主催：江田島市教育委員会）が開催されました。この交流会は、各校が取り組んださとうみ学習の成果を共有するとともに、ワークショップなどの交流を通じて学びの深化を図ることを目的としています。今回が初めての開催となるフェスタには、さとうみ学習のリーディング校である能美中学校（1年生）、中町小学校（6年生）、江田島小学校（5年生）のみなさんに参加してもらいました。また当日は、地元江田島で、里海をフィールドに活動している今田知佐子さん（アーティスト）、木原江美さん（元プロウェイクボーダー）、平山良太さん（さとうみ科学館専門員）をゲストとしてお招きし、児童生徒たちの発表にコメントをいただくとともに、ワークショップでの意見交換を行っていただきました。それでは当日の様子を少し紹介しましょう！

【第1部：各学校の取組発表】

まずは各校による実践発表です。みんなの広場を会場に、カキ打ちや釣り、SUP やビーチコーミングなど、今年実際に体験し、さらに詳しく学んだ内容について、タブレットやパソコンを使いながら、わかりやすく発表してくれました。

〈各学校の取組発表〉

- ◆江田島小学校（5年生）
「知ろう！楽しもう！未来に残そう！
自慢の海 ふるさと えたじま」
- ◆中町小学校（6年生）
「江田島の魅力を発信！！～Catch Your Dream～」
- ◆能美中学校（1年生）
「好きだから伝えたい！～江田島の海の魅力～」



会場内の雰囲気

“ふるさとの海を未来につなぐこと”の大切さについて熱く語るとともに、島の魅力を広く知ってもらうために、「オブジェ」や「ポスター」の制作を行っていること（現在進行形）など、里海の魅力を実感し、学び、それを伝えようとする取組ばかりでした。

ゲストのみなさんからは、発表の出来に驚かされたこと、実際に体験して学んだことを新たなチャレンジにいかしていることなどについて、それぞれの立場からコメントいただきました。



江田島小学校5年生



中町小学校6年生



ゲストのみなさん



能美中学校1年生

【第2部：さとうみ学習ワークショップ】

第2部は、会場を体育館に移し、ファシリテーターとしてお招きした県立広島大学大学院の百武ひろ子先生（経営管理研究科教授）の進行のもと、ワークショップを行いました。小中学生混合の5人1組で1つの円卓を囲み、今年取り組んだ学習を振り返りました。さとうみ学習を通じて、海への親密度がどのように変わったのか、自分の思いを付せんを書いて円卓に貼り、グループ内で共有しました。さらに、「次にどんなことを授業でやってみたい？」と百武先生に問われ、それぞれの思いをグループ内で1つにまとめ、発表しました。「水上ドッジボール」、「無人島キャンプ」、「魚の研究」、「江田島産のすし店を開く」、「海辺の演奏会」など、今後の学習につながる様々なアイデアが提案されていました！来年度以降、どのような江田島オリジナルの授業が行われるのか期待がふくらみます。

今回のワークショップでは、初めて話すメンバーも多い中、自分の意見を伝えあい、これだけ自由な考えを出せたのも、海で体験し、海に学んださとうみ学習の成果の1つだと思います。



百武ひろ子先生



会場の様子



和やかな雰囲気の中、児童生徒のみなさんは、活発な意見交換をしていましたよ！



ゲストや教員、参観された保護者のみなさんにもワークショップに参加し交流してもらいました！



やってみよう 見てみよう

「共に生きる」の巻

ヤドカリの仲間は、巻貝の殻を“宿”として借りている生き物として有名ですが、実はこの“宿”を介して様々な生き物と「共生関係」を築いている生き物としても有名です。今回は、そんなヤドカリの“宿”に共生している生物について紹介しましょう！

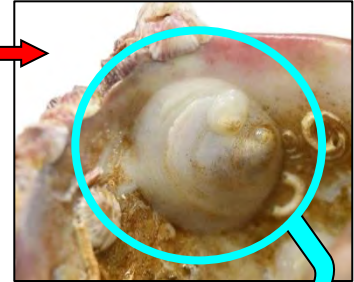
ヤドカリの殻にすむ生き物たち

これまで550種以上の動物が、ヤドカリの“宿（貝殻）”の内部や外部から発見されています。そのほとんどが同棲している側のみメリットがある「片利共生」だとされています。死んだ巻貝の貝殻は、一般的には海底に沈み、やがて埋もれてしまいます。しかし、ヤドカリが“宿”として利用してくれることで、他の生きものたちも“自分たちの生息場所”として利用できるわけです。

ヤドカリの“宿”を利用している動物の中で、一番多いグループは軟体動物で、腹足綱、とくにカリバガサガイ科の仲間が多く、今回紹介する「ヒラフネガイ」もその1種です。



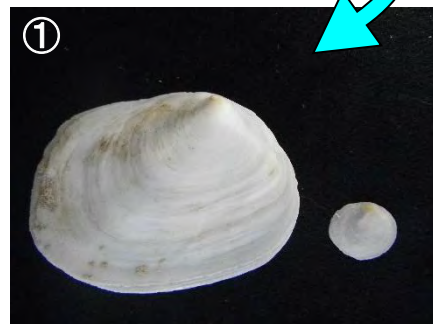
【ケブカヒメヨコバサミ】



「ヒラフネガイ」は、殻口付近の大きな個体がメス、メスの貝殻の上や“宿”貝殻の奥にいる小さな個体がオスです（写真①）。一見すると二枚貝のようにも見えますが、れっきとした巻貝の仲間です（写真②：殻頂が巻いていて、写真③矢印：殻口内部（裏側）に隔壁を持ちます）。「ヒラフネガイ」の共生は、ある特定のヤドカリとのみ行われるものではなく、比較的大型種のヤドカリで、殻口が広いタイプの巻貝、ツメタガイ、アカニシ、サザエなどを“宿”として利用しているヤドカリ種の殻に「ヒラフネガイ」の共生を確認することができます。

それにしても、なぜこんなに平らなのか？ヤドカリは、“宿”貝殻が小さくなる（狭くなる）と、大きな貝殻に引っ越しをして、今まで“宿”としていた貝殻は捨ててしまいます。こうなると、貝殻に付着している「ヒラフネガイ」にとっては大ピンチ！「ヒラフネガイ」にとっては、貝殻が“宿”としてヤドカリに使われていることが重要です。そのため、平らな貝殻を保つように成長することで、ヤドカリとの共生を長く保とうとしているのではないかと考えられています。

まさに狭い空間への適応なのです！



【ヒラフネガイ】（腹足綱カリバガサガイ科）



◆他にもあるよ！！Let's Try！！◆

ヤドカリの“宿”に共生しているといえば、やっぱり「エタジマホンヤドカリ」ですよね。ヒドロ虫「ミサキアミネウミヒドラ」が、宿の表面に付着しているため、見た目“ふさふさ”のピロードをまとっているような姿のヤドカリです。しかも、ヒドロ虫が物質を分泌して“宿”を大きくしてくれるというおまけつき！

まさに互いが補い合っている関係です。



◆第68回広島県科学賞◆



今年度の結果発表!

特選受賞

第68回広島県科学賞（広島県・広島県教育委員会・広島県科学賞委員会主催）の作品審査会が広島県立教育センターで行なわれ、各賞の結果が公表されました。今年度は、県内小・中・高等学校あわせて33,732点の作品が応募され、江田島市からも小中学校あわせて409点の作品が応募されました。そのうち、能美中学校1年の桂唯那さんの作品「寝ぐせを防ぐ研究」は、見事「特選」を受賞しました！桂さんの作品は、中学校の応募作品15,506点のうち上位3作品に選ばれたことになります！その他、次のような入賞作品が出ています。みなさん、おめでとうございます！これからも科学研究にチャレンジしてくださいね。

	学校名	学年	名前	作品名
特選	能美中学校	1年	桂 唯那	寝ぐせを防ぐ研究
入選	能美中学校	2年	御堂岡 乃莉子	耳をすませば～もしもし？私の声が聞こえますか？～音が伝わりやすい糸電話
	江田島小学校	6年	杉本 萌結	スライムの不思議2
	切串小学校	5年	高橋 晏	江田島の貝がら大調査！！

★努力賞★ 小学校・・・14点 中学校・・・16点

潮見表 1月の観察に適した日時（干潮時刻と潮位）

1月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
曜日	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	
時分	4:17	4:58	5:40	6:22	7:04	7:50	8:41	9:48	11:23	0:00	1:08	2:06	2:58	3:44	4:26	
cm	-9	-14	-10	1	23	54	91	127	151	53	32	13	-3	-13	-16	
時分	16:56	17:36	18:17	19:00	19:45	20:34	21:33	22:44		12:55	14:04	14:58	15:43	16:23	17:01	
cm	108	100	94	89	85	82	77	68		154	144	130	117	106	98	
1月	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
曜日	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
時分	5:04	5:39	6:11	6:42	7:13	7:47	8:29	9:34	11:35	13:16	1:02	1:58	2:46	3:29	4:11	4:50
cm	-11	2	20	44	72	104	137	166	180	170	66	42	17	-6	-23	-30
時分	17:35	18:09	18:41	19:13	19:48	20:27	21:18	22:31	23:54		14:12	14:53	15:30	16:07	16:43	17:20
cm	92	88	86	86	88	92	97	97	86		152	133	114	95	78	63

cmの数字が小さいほどよく潮が引きます。

令和7年 潮汐表（海上保安庁）から

潮位30cm未満（白抜きの文字）が調査に適しています。

事務局だより

●アクアギャラリーをリニューアル中です！・・・現在、アクアギャラリーのリニューアル作業を行っています。これまでバックヤードとして使っていた場所を無くし、展示エリアを1.5倍ほど広げます。職員で考えながら作業しているので時間はかかりますが、みなさんに楽しんでいただける空間づくりのため、がんばっていますよ！オープンまでの間は、アクアギャラリーを閉鎖していますが、2階の水槽展示を継続中ですので、こちらをご利用ください。



●年末年始のお知らせ

年末は12月26日（木）まで、年始は1月6日（月）からの開館となります。

●休日開館日（1月）のお知らせ・・・1月も毎週土曜日を開館。9:30-17:00（入館は16:30まで）です。詳しくは事務局までお問い合わせください。

江田島市教育委員会 教育部 大柿自然環境体験学習交流館

さとうみ科学館

Satoumi Science Museum (SSM)

〒737-2214

広島県江田島市大柿町深江1073番地1

TEL:(0823)57-2613

FAX:(0823)40-3100

メール:satoumimail@yahoo.co.jp

HP:『さとうみ科学館』で検索

◆事務局スタッフ◆

館長:西原 直久

専門員:平山 良太

学芸職員:鎌崎 賢三

運営指導員:下中 茂樹

運営指導員:峯 哲士

支援員:木村 さつき

里海ナビゲーター:守本 怜矢



(友の会会員)

シニア 182名

ジュニア 141名

◆あとがき◆定置網の漁に同行してきました。乗船した日はカワハギやマアジが大量で、その他にもキスやブリ、ハモなど約20種類の魚が網に入っていました。江田島の海の魚類相を知るうえでとても貴重なものです。ご協力いただきありがとうございました。(鎌崎)